

# 防災の意識を高めて、安全・安心のまちづくりを かしま防災サポーターズクラブ



地震や豪雨、洪水など、自然災害はいつどこで起こるかわかりません。今月は「災害は他人事ではない」と立ち上がった、鹿島市の市民自主防災組織の活動を紹介します。



取材協力

かしま防災サポーターズクラブ  
代表 徳永 信行さん



鹿島市で昭和37(1962)年に起きた「7・8水害」での経験も、徳永代表が会を発足させた出来事の一つ。朝倉市などの災害は、「決して他人事ではない」という想いがあります。



朝倉市で土砂崩れ  
かき出さず

2016年の熊本地震、昨年7月の九州北部豪雨。近年、私たちの身近な地域でも大きな自然災害が発生しています。そんな中、昨年8月『安全・安心のまちづくり』の推進を目的に、「かしま防災サポーターズクラブ」が設立されました。現在、役員11名を含む個人会員は82名。地区単位ではなく鹿島市全域にわたる防災組織にすることで、広域での連絡網が築かれ地域間でお互いに助け合う仕組みづくりが進んでいます。かしま防災サポーターズクラブのメンバー

をうかがうと『仲間の和』という答えが。「自分たちでなんとかすることも大切ですが、例えば土砂のかき出しをするにしても、1軒の家を助けるために10人くらいの人が必要になります。万が一のときにみんなが協力できる体制が必要です」とメンバーの片淵さん。また『固定電話は災害の時に使えなくなる』という益城町の区長さんのアドバイスを受け、メンバー内で携帯電話の連絡網をつくりました。「今年4月に起きた大分県中津市の土砂崩れも『まさか』という感じだったと思います。

は鹿島市社会福祉協議会などの呼びかけで、これまで熊本県の益城町や西原村、豪雨被害のあった福岡県の朝倉市などの災害支援ボランティア活動に参加。「朝倉市では家のまわりの土砂のかき出しを行いました」と話すのはクラブ代表の徳永さん。被災地の大変な状況を知った時、地元鹿島にも防災組織が必要だと強く感じたそうです。朝倉市のボランティア活動には鹿島市内の小学生が自ら参加したこともあり、被災地の方に大変喜んでいただけました。今年4月には徳永さんをはじめメンバー7名が防災士の資格を取得。佐賀県から地域防災リーダーとして任命されました。そんなみなさんに自主防災において大切なこと

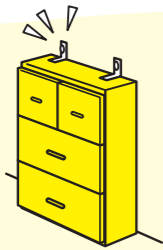


地域の避難場所への経路などの確認も行う

自主防災の啓発の難しさは、他人事とされている人が多いところ。災害が起こる前に考えることが大切なんです」と副代表の松尾さん。今後もボランティア活動をはじめ、防災について広く活動して県内に同じようなグループが増えてほしいと願っているそうです。自主防災の基本は、自分の命は自分で守ること。各家庭で、それぞれの地域で、防災について考えてみませんか？

かしま防災サポーターズクラブ  
(鹿島市社会福祉協議会内)  
☎0954(62)2447

## 家庭でできる 防災



転倒を防ぐために  
家具を固定する



3日分の水と食料を備蓄



家族で地域の避難所を確認する、  
実際に歩いてみる



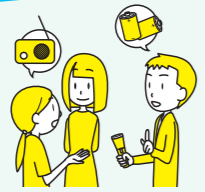
避難場所の看板など  
目印もチェック

お父さん、お母さん、子どもたちなど家族で必要なものが違うのでそれぞれに準備しておくことも大切です



## 家庭でできる災害シミュレーション

### 「電気を使わない日」、 「水を使わない日」を つくってみよう



災害が起こると、電気、水道、ガスといったライフラインが使えなくなる可能性もあります。「電気を使わない日」や「水を使わない日」を決めて一晩過ごしてみると、いざというときに家族で何に困るかに気付くことができます。また、どう解決するかを家族で話し合うことで、子どもたちからもいろんなアイデアが生まれて、防災への意識が高まります。



もしものときを考えて家族で話し合っておくことが大切です。楽しみながら行うのがオススメです

## もしものときのために。お役立ちツール

携帯電話などのメール機能を使って防災情報や防犯情報などを配信する「防災ネット あんあん」。これからの雨の時期、もしものときのために、ぜひ登録して、地域の防災活動や安全・安心の確保に役立てましょう。

☎ 消防防災課  
☎0952(25)7026

- ステップ 1** まずはアクセス  
佐賀県防災・安全・安心情報配信システム  
「防災ネット あんあん」  
<http://esam.jp>へアクセス  
防災ネットあんあん 検索
- ステップ 2** 空メールの送信
- ステップ 3** 受付メール受信
- ステップ 4** 地域や情報の種類を選択
- ステップ 5** 登録確認して完了



被災地に行くことで学ぶことも  
多いのだそうです  
(朝倉市での災害支援ボランティア)



被災地からたくさんのお礼の手紙もいただき  
今でも現地の人との交流が続いています